



3月19日(金曜日) 卒業証書授与式 市内各小学校

市内の各小学校で卒業証書授与式が行われました。心配された天気も良く、咲き始めた桜に見守られながら小学校を巣立っていきました。今年も新型コロナウイルス感染症予防で、在校生や地域の方々の出席は最小限に限られました。式後の見送りには、地域の方々も参加されていました。今後は、さらに地域を愛し、地域から愛される中学生として活躍してほしいと願っています。



3月7日(日曜日) フリーマーケットin琴芝 琴芝地域

琴芝ふれあいセンターにおいて「フリーマーケットin琴芝」が開催されました。今年度はコロナ禍でなかなか地域行事ができなかったため、新たに計画されたものです。学校からは、地域支援・保健チームと連携して保健委員会の取組について紹介するパネル展示を、PTAは手作り品を出店しました。さらに、上宇部中学校の生徒会も子どもたちが楽しめるお店を出しました。当日はや風が心配されましたが、地域の願いが通じ、絶好の天気となりました。



3月5日（金） こうなんちゃんだより5 厚南小学校

厚南小学校では、コミュニティ・スクールとしての取組を「こうなんちゃんだより」として、学校ウェブページに掲載しています。5日に発行されたNo.5では、3年前から学校と地域の連携のあり方を共に考えてくださったり、地域でも様々な活動を企画されたりしている地域コーディネーターさんを照会しています。Sさんは、市の「地域学校協働活動推進員」も委嘱しています。この便りにより、地域も推進員さんのことが大変よく分かります。



3月4日（木）「東岐波小の老桜の話」 東岐波小学校

3年生の道徳の時間に、地域の樹木医の戸坂隆男さんをお招きして、校庭の古い桜のお話を聴きました。一度は枯れかけた樹齢100年の桜の木ですが、せっきくの桜の木を切るのは忍びないと、地域の方と再生に向けて尽力されたとのこと。桜の木のエピソードを聞くことで、子どもたちは地域の方々の思いや願いが少し汲み取れたようでした。「やさしい気持ちで、しっかり見たら、きれいな花をさかせるんだ!」、「わたしたちも、さくらの木をもっと大切にしたい。」といった感想が聞けました。



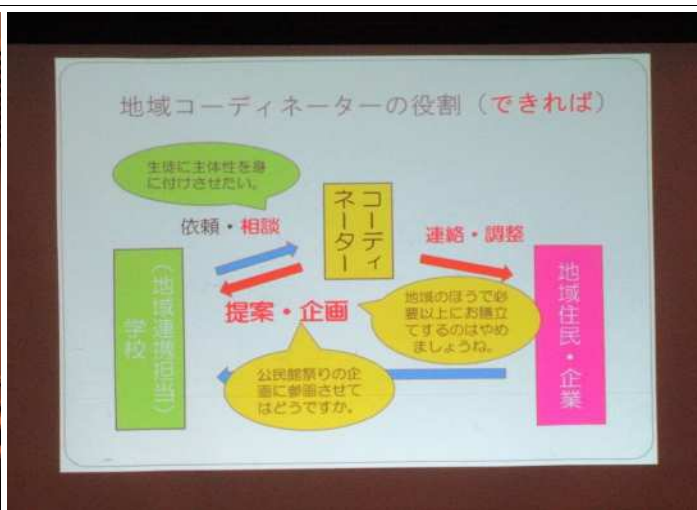
3月4日(木) 児童によるプログラミング指導 琴芝小学校

本年度最後の学校運営協議会では、5年生の児童がこれまで授業で学んできたプログラミングの成果を委員さんに教える活動が設定されました。児童に優しく丁寧に教えてもらいながら、手や体の動き、言葉をタブレットでプログラミングし、人型ロボットのペッパー君がその通りに動いてくれたときは、委員さんから歓声が上がっていました。最先端の教育を実感することができました。



2月25日(木) 地域学校協働活動推進員の委嘱

子どもも大人地域の魅力を実感・再発見し活性化させるために、いま学校と家庭地域が協働した取組求められています。この取組は平成29年3月の社会教育法の改正により、「地域学校協働活動」として法律に位置付けられました。山口県では、この協働活動を『幅広い地域住民の参画を得て、全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核した地域づくり」を目指して学校が相互にパートナーとして連携・協働行う様々な活動』としています。この活動を中心的に進める役が「地域学校協働活動推進員」です。本市は各小学校区毎に教育委員会が委嘱します。2月25日に、教育長が委嘱状を手渡しました。



2月25日(木曜日) これからの地域コーディネーターのあり方
宇部市地域コーディネーター研修会

学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの果たす役割は、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を一体的に進めるために重要です。市では定期的に研修会を開催し、資質の向上を図っています。本年度は、コロナ感染症の影響を受け、度重なる延期をしてきましたが、ようやく研修会を実施することができました。県地域連携エリアアドバイザーの笹村氏による、これからの地域コーディネーターのあり方について分かりやすくお話していただきました。



2月8日(月) 「常盤中学校区の未来を考える会」開催
常盤中学校

常盤中学校区（常盤中、岬小、恩田小）の生徒、保護者、地域住民、学校関係者が一堂に会し、「常盤中学校区の未来を考える会」と題し熟議が開催されました。「学校から地域行事への参画」と「地域から学校行事への参画」の双方向から地域連携について意見交換がなされました。司会・進行は常盤中学校の生徒です。熟議の後には、生徒会代表が2～3分で総括していました。校区の未来を自分の課題として語っている生徒の姿に、地域の人々は頼もしさを感じ、深くうなずいておられました。



1月28日（木） 学校運営協議会で児童が地域貢献について決意表明
小野小学校

第4回学校運営協議会では、5年生児童2名が、挨拶で小野の街を明るくしたいという決意表明をしました。国語科のグラフ分析の学習で、学校評価の挨拶項目を調べたところ、児童評価は高く、保護者評価は低いという結果に直面しました。児童がアンケートを作成し再調査したところ「声が小さい」「目を見て挨拶していない」等の反省点が上がってきました。総合の学習で改善点をポスターや防災無線で地域全体に呼びかけたとのことです。児童が力強く語った地域貢献の気持ちに学校運営協議会委員から万雷の拍手が贈られました。



1月26日（火） 市政100周年記念市民プロジェクトへの参画
西岐波中学校

西岐波中学校では、来年度の市政100周年の記念プロジェクトとして西岐波地区が応募した「白土海水浴場整備事業」に、生徒と一緒に参画しています。この事業の一環として、美術部員が白土海岸のシャワー室に壁画を描きます。この日、9月、10月に続く、3回目の協議を行いました。市職員、学校運営協議会会長、教職員とともに、生徒6名が参加し、西岐波の活性化に向けて熱い協議を行いました。「インスタ映えるする壁画」を目指すそうです。



1月26日（火） 次年度の取組に向けて熟議
原小学校

原小学校で、第4回学校運営協議会が開催されました。今回は学校評価の結果を受けて、今後、課題の解決に向けて取り組みたいことについて話し合いました。協議では、学校評価の結果を網羅的に説明するのではなく、「学の部」「心の部」「体の部」の3グループに分かれ、それぞれの担当の教員が予めテーマを絞って協議を行いました。自主的な家庭学習、清掃活動、メディアコントロールについて、多様な立場からの意見が出されました。3学期のこの時期に熟議をしてこそ、新年度の地域連携の有意義なスタートを切ることができます。



ふさちゃんによるインタビュー



せいごくんへの質問タイム



案内ポスターとけんちゃん



保護者自宅や多目的ルームにもZOOM配信

1月20日（水曜日） 教えて先輩 厚東っ子の夢
厚東小学校

各地で活躍する厚東小学校出身の先輩によるキャリア教育をZOOMを使ってリモートで実施しました。地元宇部でパティシエとして活躍している「ふさちゃん」とその同級生である「せいごくん」と「けんちゃん」の3名が、厚東小在学中の体験や夢、今の職業について語っていただきました。ふさちゃんは会場の体育館にパティシエの服装で登場し進行を担当。小児科医のせいごくんは山大医学部、広告デザイナーのけんちゃんは東京の職場からリモート参加されました。それぞれの先輩からは、夢を実現するために大切なこと、原点は厚東にあること、厚東でいろんな体験を積んでほしいことなどについて学びました。この活動は、地域の「厚東の地域は厚東小の学校教育を応援したい」「厚東の子供たちは厚東の地域で育てたい」という深い想いと学校が協働して実現した素晴らしい取組です。